

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2023

課題番号：16K02362

研究課題名（和文）平曲伝承資料の基礎的研究

研究課題名（英文）A Fundamental Study on the Documents of Transmission of Heikyoku

研究代表者

鈴木 孝庸（Suzuki, Takatsune）

新潟大学・人文社会科学系・フェロー

研究者番号：90143742

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、平曲・平家琵琶の伝承資料の網羅的、文献学的な検討を行った。伝承資料とは、平曲音譜本、平曲指南書、當道資料である。このことを通して、平家物語の文章と平家物語の琵琶語り（平曲・平家琵琶）との関係を考えようとした。また、本研究は、私自身の実際の平曲・平家琵琶の演誦公演によって、様々な問題観点に気づくことが多い。そのため、出来るだけ機会を設けては、公演活動（ほとんどは無料公演）を行うようにした。本期間における公演活動の最大・中心の演誦は、「一部平家」である。「一部平家」とは、平家物語を平曲・平家琵琶によって、物語の最初「祇園精舎」から最後の「御往生」までを物語順に語り通すことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

平家物語が琵琶法師によって語り広められていたという歴史的事実は国民の常識であり、平家物語の文章も琵琶語り（平曲）によって洗練されたのだと言われながらも、具体的な検討はほとんどなされて来なかった。本研究は、平曲・平家琵琶の伝承資料をできる限り検討し、実際の平曲演誦にも基づいて、出来るだけ具体的に検証しようとしたのである。

また、今日、平曲の伝誦者は激減したこともあり、演誦を一般の方々に聴いていただく機会も激減したのであるが、私の研究に基づきながら「一部平家」や「巻平家」「巻通し」などという過去の演奏会法式の再現は、社会的にも意義があったと考えている。

研究成果の概要（英文）：This study conducted a comprehensive and philological examination of traditional materials for Heikyoku and Heike Biwa. These traditional materials are Heike Monogatari music scores, Heike Monogatari instruction books, and common practice materials. Through these, I attempted to consider the relationship between the text of Heike Monogatari and the biwa narration of Heike Monogatari (Heike Monogatari and Heike Biwa). In addition, this study often brings to my attention various problem perspectives through my own actual performances of Heike Monogatari and Heike Biwa. For this reason, I have tried to hold performances (mostly free performances) whenever possible. The largest and most central performance during this period was "Ichibu Heike". "Ichibu Heike" refers to the recitation of Heike Monogatari in the order of the story, from the beginning of the story "Gion Shoja," to the end "Gooujou," through Heike Monogatari and Heike Biwa.

研究分野：日本文学

キーワード：平家物語 平曲 平家琵琶 琵琶語り 琵琶法師 音譜本 當道 盲人資料

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、平家物語と琵琶語りに関する歴史的な事実と、文学、文章の出来具合に関する、長年の常識が、指摘されながらも、具体的な検討に入らなかったことに対し、出来るだけ具体的な資料(平曲伝承資料および平家語りの実際・平曲)に基づいて考えてみようとしたものである。

### 2. 研究の目的

(1)、語りもの系『平家物語』(覚一本、下村本、流布本など)の文章表現を、平曲音譜本の本文、曲節配分、墨譜などとの比較検討により、平家語りが文章創出に関わることがあったのかどうかの検証。

(2)、平曲音譜本の本文、曲節配分、墨譜などの検討により、平家物語の世界を平家語りとしてどのように人々に伝えようとしていたのかの検証。

(3)、室町時代、江戸時代に行われていた平曲演誦の実態の解明。

### 3. 研究の方法

(1)、平曲音譜本のうち、『平家正節(へいけまぶし)』が、今日実際の平曲として残されているので、それを習得することが第一である。

(2)、『平家正節』の諸伝本の精査、細部の検討により、先人の演誦関係の工夫のあとをたどる。

(3)、今日の演誦としては残されていないが、音譜本として残されている諸音譜本の検討。

(4)、室町時代に行われていた「一部平家(いちぶへいけ)」の再現、追体験。「一部平家」とは、平家物語を、巻第一「祇園精舎」から始めて、物語順に平曲で語り進め、灌頂巻「御往生」で語り終える演奏会法式である。断続的に行う場合と、三十日連続で行う場合とがあった。

### 4. 研究成果

(1) 『平語小曲』の再検討。『平家正節』にやや遅れて成立した音譜本で、譜記は『正節』と同様なので、先行の研究もあるが、それほど注目されなかった音譜本であるが、音譜本の諸本のなかでは唯一版行されたことでも注目されている。譜記を検討した結果、ある墨譜(ウキ、アタリ)が配置されていないことに注目し、平曲の教習または演誦の場合の自由裁量との関わりなどを考えた。なお、架蔵本によって影印をかなり出している。

(2) 『平曲中音集』の影印による紹介。平曲の曲節 中音 ちゅうおん は、口説くどきと並んで、平曲全体の語りを支える重要な曲節である。中音で演誦する名箇所を集めた音譜本『平曲中音集』(架蔵本)の全丁を影印で紹介した。

(3) 国立臺灣大學圖書館蔵平曲音譜本の研究と影印刊行。国立臺灣大學圖書館では旧臺北帝國大學蔵の和書を所蔵しているが、この中に平曲音譜本が三種四点ある。私は、国立臺灣大學圖書館と、「平家物語音譜本」として全三巻で影印刊行(解題等はこちらの執筆)の出版契約を結んでいる。本研究期間中にその第一巻(波多野流の音譜本)が刊行された。

(4) 「平曲伝承資料」の入手。すでに何点か関連資料を購入しているが、本研究期間中も可能な限り入手に努力した。現在、音譜本に関しては、

イ、貞享四年奥書のある前田流音譜本 一冊

ロ、『平家吟譜』系音譜本 三冊

ハ、「豊川本」系音譜本 二冊

ニ、波多野流系音譜本 二冊

ホ、『平家正節』 数点数冊

ヘ、『平語小曲』 二冊

いずれも端本であるが、音譜本の主要な伝本を所有していることになる。

(5) 「平家語り 声による平家物語の解釈と表現」(松尾葦江編『無常の鐘声』所収)の執筆。この論考は私にとってある見通しを得るものとなった。ここでは、

、平家語り(平曲演誦)の基本として、演誦者と語り素材(テキスト)との関係、対応

、平曲の音楽的構造の基本

、物語が大きなひとまとまりであることと、平曲の一句一句の構成力、一句一句の独立的傾向、

、平家物語研究と平曲研究の接点のひとつとして、曲節注記つき平家物語テキストの紹介に関する工夫

の歴史

を述べ、平曲研究が文学研究としても次の段階に進もうとするならば、曲節(旋律型)次元

だけでなく、墨譜次元に踏み込む必要があるだろうと、述べた。～ について、それぞれ発展的、註釈的論考が計画できると考えている。

(6) (5) に関する論考。「平家物語のテキストに対し、演誦者はどのような位置にいるのか」という関心による論考。特に平家物語の登場人物の一人称的感情的な「ことば・発話・発言」を扱うことの多い曲節 折声 おりこえ 強声 こうのこえ に着目し、検討を重ねて、ほぼ終わりに近づいている。登場人物それぞれになりきっての演誦ではなく、語り手・演誦者のいわば覚めた語りの磁場の力を検証する結果となっている。

(7) (5) に関する論考。中学高校の古典の教材として取り上げられることも多い有名章段のうち「木曾最期」について、平曲の曲節配分や墨譜などから見た場合に、どのような章段(平曲では「句く」と言うが)と捉えられるのかを考えた。また、一句・一章段のまとまりの良さは、平家物語の読者、平曲の聴衆、学校教育の場などでの肯定的好意的な評価につながっていくと考えられるが、本来の平家語りの基本は、それとは異なるものだったらしいことが、私には想定される。

(8) 本研究の根底を支えるのは、私自身の平曲習得と演誦活動である。平曲習得は、橋本敏江に師事して来たが、最終段階の残り数句というところで橋本師御逝去、残りを館山宣昭師に教わって、皆伝の免状をいただいた。音譜本研究は、実際に声に出してみ、特に人前で語ってみて、いろいろな問題に気づくことが多いとしみじみ思う。私自身は、与えられた機会、自分の企画する機会などで、出来るだけ人前での演誦を行うよう心がけているつもりである。本期間中で特に大きな活動としては、「一部平家 いちぶへいけ」である。これは、橋本師が何百年ぶりに復活させた演奏会法式で、平家物語の全巻全句を巻頭「祇園精舎」から始めて物語順に進め、最終の灌頂巻「御往生」で閉じるというものである。

私も、橋本師のあとをたどって、本期間中2回「一部平家」を行った。最初は、断続的に進めて全66回で完結。会場は神奈川県立横浜翠嵐高等学校であった。次の「一部平家」は30日連続で語り終えるもので、会場は越前市・御誕生寺であった。いずれも報告を行った。

「一部平家」以外では、「巻平家 まきへいけ」「巻通し まきとおし」という演奏会法式を再現追体験してみた。この他にも演奏会法式の計画を持っている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 71
2. 論文標題 平曲における大音聲について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古典遺産	6. 最初と最後の頁 45-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 57
2. 論文標題 平曲からみた木曾最期	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 新潟大学国語国文学会誌	6. 最初と最後の頁 40-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 152
2. 論文標題 三十日一部平家について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 新潟大学 人文科学研究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 23
2. 論文標題 閻魔法王のふたつの偈 仏教的言説と平家語り	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 比較宗教思想研究	6. 最初と最後の頁 15-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 10
2. 論文標題 平曲 しらこえ ノート 規範と自由裁量と	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 「よつのを」荻野検校顕彰会会報	6. 最初と最後の頁 6-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 150
2. 論文標題 平曲における感情表現 登場人物の発声とその曲節	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 新潟大学「人文科学研究」	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 2
2. 論文標題 平家語り 声による平家物語の解釈と表現	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 松尾鞆江編、軍記物語講座第二巻『無常の鐘声』(花鳥社 刊)	6. 最初と最後の頁 197-212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 7
2. 論文標題 平家を語る琵琶法師	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本盲教育史研究会会報	6. 最初と最後の頁 4-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 7
2. 論文標題 平家琵琶と當道座	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本盲教育史研究会会報	6. 最初と最後の頁 15-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸・藤田郁子	4. 巻 148
2. 論文標題 平曲平家物語問答	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新潟大学「人文科学研究」	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 226
2. 論文標題 貞成親王と平家語り	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 藝能史研究	6. 最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 146
2. 論文標題 一部平家のむかしいま	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文科学研究(新潟大学)	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 第144輯
2. 論文標題 平家語りと聴かせどころ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新潟大学 人文科学研究	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 第142輯
2. 論文標題 音譜本と語り 『平語小曲』の記譜の問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文科学研究(新潟大学人文学部)	6. 最初と最後の頁 1 - 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 5号
2. 論文標題 平家物語の弁才天信仰	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 よつのを(荻野検校顕彰会 会報)	6. 最初と最後の頁 9 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 第140輯
2. 論文標題 平曲「木曾最期」の語り 演講の場から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人文科学研究(新潟大学 人文学部)	6. 最初と最後の頁 21 - 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木孝庸	4. 巻 0
2. 論文標題 尾崎家蔵『平家正節』関連文書 書誌	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『尾崎家蔵『平家正節』関連文書 デジタルブック&調査・成果報告書 』	6. 最初と最後の頁 6 - 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 鈴木孝庸
2. 発表標題 平家琵琶と當道座
3. 学会等名 日本盲教育史研究会ミニ研修会(2019.6.29) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木孝庸
2. 発表標題 室町時代の琵琶法師の活動について
3. 学会等名 藝能史研究會 大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木孝庸
2. 発表標題 平家を語る琵琶法師
3. 学会等名 盲教育史研究会 (招待講演)
4. 発表年 2018年



〔図書〕 計1件

1. 著者名 鈴木孝庸, 孫暘	4. 発行年 2018年
2. 出版社 國立臺灣大學圖書館	5. 総ページ数 544
3. 書名 國立臺灣大學圖書館典藏 平家物語 音譜本 第一卷 平家物語 節附語り本	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------